

外国人留学生への指導・相談関連

1. 相談業務

本学に在籍中の留学生だけではなく、留学生の家族、外国人研究者および学外の徳島大学に入学を希望する留学生を対象とした指導・相談を、常三島地区の「国際センター・国際課」と蔵本地区の「国際課蔵本分室」の二か所で行っている。常三島地区では常時相談対応が可能となっている。蔵本地区では事務職員2名が常時対応にあたり、加えて火曜日と金曜日午後には教員2名が主に対応にあたっている。面談、電話、メールなどの形式で中国語、英語、韓国語、ベトナム語の四ヶ国語で対応できる体制が整っており、メンタルヘルスに関するカウンセリングが必要な場合は、保健管理・総合相談センターおよび専門医との連携のもとで対応している。

相談内容で最も多いのは、一般的な進学・修学、授業料・奨学金、住居、生活、日本での就職などであるが、他機関・学内関係部局および関係者と連携しながら対応しないと解決できない内容（例えば、窃盗事件、交通事故、飲酒運転、家賃未納（不納）、不動産のトラブル、メンタルヘルスなどに関するもの）もあり、これら比較的重い相談に対しても数件対応している。

2. 新入学生に対するガイダンス

留学生が徳島で円満に学生生活を送るための一助として、4月と10月に新入留学生を対象としたガイダンスを常三島・蔵本キャンパスで実施した。徳島市役所および徳島東警察署の担当者を招き、生活上の安全・防災に関する指導、国民健康保険への加入、国際運転免許に関する注意、自動車任意保険への加入、インターネット犯罪への注意喚起について、事例を挙げて指導を行った。ガイダンスは日本語、中国語、英語で行った。

また、11月には北島国際交流会館にて、ゴミの分別方法を含む会館での生活一般に関するガイダンスを行った（右写真）。



3. 防災訓練

11月と2月に、常三島・蔵本キャンパスにて留学生等対象の防災訓練を実施した。徳島東消防署の指導の下、本学に在籍する留学生や外国人研究者が火災に遭遇したときの電話連絡や消火器の使い方、起震車による地震を体験することにより、日本での生活を安全に過ごすための知識を得てもらうことを目的に行われた。火災時の通報訓練は、火災を発見したときに119番に電話通報するという設定で行われた。通報時に聞かれること、答え方のポイント等、シミュレーションを通じて学んだ。消火訓練では、訓練用の消火器を噴射して、消火器の使い方を学んだ。起震車で震度7を経験したことは参加者一様に驚く経験となった。揺れの怖さを感じるとともに、大規模な揺れが来たときの備えの大切さを学ぶ一助となった。正しい知識を得ること、落ち着いて行動することの大切さを知ることができた大変有益な訓練となった。

12月13日に、北島国際交流会館で防災訓練を実施した。この訓練は、北島国際交流会館に居住する外国人留学生や研究者、その家族に、津波発生時の避難方法や防災・減災についての理解を深めてもらうことを目的とした。徳島北警察署の担当の方から説明・指導をいただき、約30人の居住者が参加した。最初に徳島の津波被害想定などの説明を聞いた後、地震についての防災啓発DVDを視聴した。毛布などを使った簡易担架やツナ缶の簡易ろうそくを作製し、非常時の対応を楽しみながら学ぶことができた（右写真）。



4. 外国人留学生のための就職支援

12月5日、12日、19日の3回にわたり、「外国人留学生のための就職支援セミナー」を開催した。最初の2回に関しては「日本での就活・就職」について異文化的な観点からセミナーを開催した。第3回目（12月19日開催）は、徳島県内の外国人留学生に就職活動に必要な実践的な知識を得てもらうために、国際セ

ンターとキャリア支援室、徳島地域留学生交流推進協議会が中心となりセミナーを開催した。セミナーには、本学から 19 人、四国大学から 5 人の外国人留学生が参加した。

19 日に開催したセミナーの前半では、株式会社マイナビ四国キャリアサポート課長が、日本の就職活動のシステム、日本企業が外国人留学生を採用する際に求めることなどを説明していただいた。後半は、国際センター教員が、日本の職場の独特の習慣や考え方等について説明した。(右写真)。

外国人留学生の日本企業就職への関心は年々高まっているが、日本の就職活動の制度をよく知らないために、日本人学生に比べて後れを取ってしまうことがある。

また、3 月 16 日には企業で働く本学卒業生による就職支援セミナーを開催した。



5. 留学生受け入れおよび支援に関する活動

- 4 月 新入学生に対するガイダンスの実施 (常三島・蔵本)
- 7 月 日本留学フェア(台湾)に参加
- 8 月 サマースクール「徳島であおう」を開催
- 9 月 日本留学フェア(韓国)に参加
- 9 月 日韓プログラム留学推進フェア(韓国)に参加
- 10 月 新入学生に対するガイダンスの実施 (常三島・蔵本)
- 12 月 外国人留学生のための就職支援セミナー
- 3 月 外国人留学生のための就職支援セミナー

6. 渡日前入学許可制度

2015 年度にベトナムドンズー日本語学校(ホーチミン市)と協定を結び、徳島大学の学部への入学を目的とする「渡日前入学許可制度」を創設した。本制度はドンズー日本語学校からの推進を受け、書類審査、遠隔面接などを経て入学を許可するものであり、受験者の入学前日が必要となる。本制度で入学が許可された留学生に対しては、検定料・入学料・授業料免状と初年度の奨学金(60 万円/年間)を支給する。また、対象留学生の日本語力を強化するため、入学前に本学で半年間の日本語予備教育を実施する。留学生の受け入れ部局は理工学部と生物資源産業学部に加え、2017 年度には新たに総合科学部が加わった。

本制度の第一期留学生の 2 名は 2016 年 10 月に来日し半年間の日本語予備教育を終え、4 月には理工学部と生物資源産業学部へそれぞれ入学した。第二期留学生の 3 名は 2017 年 10 月に来日し半年間の日本語予備教育を終え、4 月には理工学部(2 名)と生物資源産業学部(1 名)へ入学予定である。2018 年 10 月には第三期生の 3 名が本学での日本語予備教育を開始し、翌年の 4 月に理工学部(2 名)と生物資源産業学部(1 名)へ入学予定である。

	学生数	来日期間	入学期間	内訳
第一期	2	2016 年 10 月	2017 年 4 月	理工学部(1 名) 生物資源産業学部(1 名)
第二期	3	2017 年 10 月	2018 年 4 月	理工学部(2 名) 生物資源産業学部(1 名)
第三期	3(予定)	2018 年 10 月	2019 年 4 月	理工学部(1 名) 生物資源産業学部(2 名)

7. サポーター制度

地域住民からなる「地域サポーター」と本学日本人学生からなる「学生サポーター」が日本語教育支援、国際交流イベント支援、海外ゲストに対するキャンパスツアーや外国人留学生への生活サポートを行っている。サポーター希望者はメールあるいは LINE(SNS) で登録申請をし、国際センター教員がイベントごとに参加者を募っている。今年度の活動内容は以下の通り。

	内容	人数
4 月 27 日 28 日	レイリア工科学院(ポルトガル)からのゲスト 6 名へのキャンパスツアーアテンド、新町小学校訪問アテンド	学生サポーター 9 名
5 月 22 日	南イリノイ大学(アメリカ)からのゲスト 1 名へのキャンパスツアーアテンド	学生サポーター 5 名
7 月 3 日	日本語クラス(全学日本語)サポート	学生サポーター 3 名

7月31日	工学部サマープログラム参加者（インド・中国・台湾・イラン・マレーシアの大学生約20名）への日本語クラスサポート	学生サポーター4名
8月8日	国際センターサマープログラム「徳島であおう」参加学生へのキャンパスツアーアテンド、日本語クラスサポート、交流会参加、阿波踊り練習	学生サポーター10名
10月6日	新入留学生歓迎会（運営・参加）	学生サポーター15名
10月17日	日本語クラス（蔵本）サポート	学生サポーター4名
12月26日	外国人留学生対象の神戸スタディツアーアテンド	学生サポーター3名
2月9日	香港からのゲスト（中高生約30名）へのキャンパスツアーアテンド	学生サポーター5名

このサポーター制度は、単に授業や行事の「手伝い」をお願いするのではなく、活動を通じて外国人留学生が日本人を知り、同時にサポーターも多文化・異文化を体験して、本学全体のグローバル化を進める役割も果たしている。現在（2018年2月）の学生サポーターの登録者は、74名である。

8. 国際シンポジウムの開催

2018年3月2日、阿波観光ホテルにて第14回徳島大学国際展開推進シンポジウム「母国で振り返る私の徳島大学留学生時代」を開催した。バングラデシュ、ポーランド、ベルギー（イラン）、中国出身の徳島大学卒業・修了留学生4人を講演者として招き、徳島大学での留学生生活を振り返るとともに日本又は各出身国における現在の取り組みについて講演を行った。参加者は合計で約100人に上った。（次頁資料参照）



第14回 徳島大学国際展開推進シンポジウム

母国で振り返る 私の徳島大学留学生時代

主催:徳島大学国際センター

徳島での留学生生活は母国でどのように活かされているのでしょうか？
徳島大学に留学し、帰国後母国で活躍されている方々にお話を伺い、併せて意見交換を行います。

日本語による講演です。一般の方のご参加もお待ちしております。(申込不要)

期日 / 平成30年3月2日(金) 15:30~17:30

場所 / 阿波観光ホテル 4階ダイヤモンドパレス
(徳島市一番町3-16-3 JR徳島駅より徒歩1分)

入場無料

プログラム

- 15:30 開会挨拶と趣旨説明 総合司会:金成海 国際センター長
- 15:35 学長挨拶:野地澄晴 学長
- (講演)
15:45 サイエンスに国境がない 大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科特任准教授 劉 莉 氏(中国)
- 16:00 Tokushima University was a Milestone for My Scientific Career
(徳島大学は私の研究者人生における転換点)
ヴァルミア・マズーリー大学生物生命工学部教授 Mariusz T. Skowronski 氏(ポーランド)
- 16:15 Applications of Electrochemistry on View of Bangladesh Perspective
-My Basic Initiation from Tokushima University
(バングラデシュの視点からみた電気化学の応用について - 原点としての徳島大学)
ダッカ大学理学部教授 Md. Abdul Jabbar 氏(バングラデシュ)
- 16:30 My 10 years Tokushima University Life: How did it influence my future?
(徳島大学での10年を振り返って:私の将来にどのような影響を与えたのか)
トヨタ モーター ヨーロッパ株式会社 Advanced Powertrain研究部門 シニアマネージャー Ali Mohammadi 氏(ベルギー)
- 16:45 意見交換会
- 17:20 学長から講演者への感謝状と記念品の贈呈
- 17:30 閉会挨拶

お問い合わせ: 徳島大学 研究・社会連携部 国際課 国際企画係 (TEL 088-656-7871)
e-mail: kokukikakuk@tokushima-u.ac.jp